

注意点1

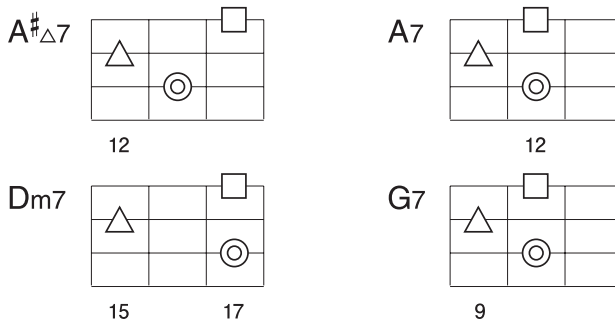
理論

3本弦を使用したコード・ポジション

ボサ・ノヴァ【註】の独特なリズム・パターンに乗りながら、コードを弾いてみると、ベースでも非常に面白いサウンドが生み出せる。このメイン・フレーズは、低音弦でルート音を鳴らしながら、高音弦でコード・トーンを弾くが(図1)、ルート音が右手親指、コード・トーンが人差指&中指という3フィンガー・スタイルになる。ハネ感と軽快さを併せ持ったリズムを生み出すことが重要なので、音符の長さを巧みにコントロールしよう。特に譜面では表現しづらいルート音の止め方は、弾き手のセンスが問われる部分になるので気をつけてみてほしい。メロディ弾きとリズム・プレイを的確に融合させられるように練習しよう。

図1 メイン・フレーズで使用するコード

◎ルート音 △3度 □7度



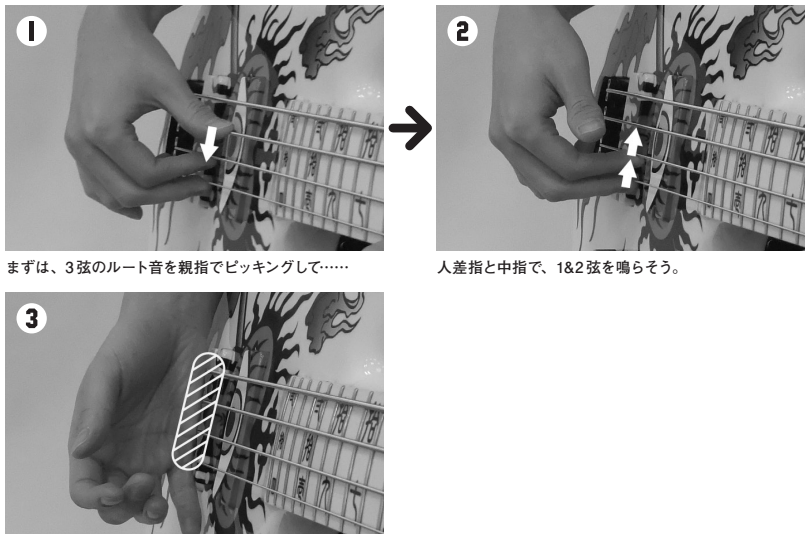
3度や7度などのコード・トーンは、ルート音を中心にして位置関係を掴むと覚えやすい。

注意点2

右手

右手の各指を各弦に割り当てて演奏せよ!

このメイン・フレーズでは、セブンス・コードを効果的に使っている。ルート音となる3弦は親指、3度となる2弦は人差指、7度となる1弦は中指でピッキングしよう(写真①&②)。ここでは、音の長さを的確に調節することがポイントになる。これによってグルーブ感が大きく変わるので注意してほしい。2小節目と4小節目は、シンコペーションしながら入るので、ここでリズムを見失わないように気をつけよう。余弦となる4弦のミュートも大切で、左手の親指や右手の側面を使って、余計な振動を防ぐとよい(写真③)。右手による微妙なニュアンス付けなども意識しながら演奏するべし!



まずは、3弦のルート音を親指でピッキングして……

人差指と中指で、1&2弦を鳴らそう。

右手の側面を使って、余弦を完全ミュートせよ!

~コラム20~

将軍の戯れ言

4ビートならジャズ、8ビートならロック、16ビートならファンク、2ビートならメタルなど、リズム・パターンは“音楽性”を匂わせる重要な要素だ。リズム・パターンには、このほかにもワルツ、サンバ、タンゴ、マンボ、ルンバ、アフロ・キューバン、フラメンコなどのワールド・ミュージック/民族音楽系があるが(図2)、これらを効果的に活用することで、独創性豊かな作品を生み出せるだろう。音楽の3大要素は“リズム”“メロディ”“ハーモニー”である。ベーシストとして、その“リズム”に深く精通することは、大きな武器になるのでじっくり学んでほしい。

民族音楽系ビートを活用して独創性溢れるフレーズを生み出せ!

図2 民族音楽のベース・パターン

- ・ワルツ $\frac{3}{4}$ 3拍子で、1拍目に休符が入る。
- ・サンバ $\frac{2}{4}$ 2拍子で、速いテンポで演奏することが多い。
- ・サルサ $\frac{4}{4}$ シンコペーションを多用する。

【ボサ・ノヴァ】ブラジルの伝統的な音楽であるサンバに、ジャズの要素を加えた音楽スタイル。ちなみに、ボサ・ノヴァという言葉は、ポルトガル語で“新しい感覚”という意味。